

明倫奨学生 近況報告

平成30年度奨学生 温水聖太

梅雨明けの候、ますますのご盛栄とお慶び申し上げます。今年度前期、私に明倫奨学金を支給してくださり本当にありがとうございました。今年度前期をもつて、私は九州大学の最終学年を迎えました。

私は3年まで卒業に必要な単位の9割強を取得したので、今年度前期は卒業論文指導以外の講義はありませんでした。その卒業論文指導も月1回の開催だったの、残りの時間を卒業論文の執筆や資格の勉強（簿記）に費やしました。福岡県は2022年7月時点で以前新型コロナウイルス感染症の患者は増加していますが、九州大学では次第に対面での講義が実施されるようになりました。私が受講している卒業論文指導も対面で実施され、大学では初めての専攻の講義を対面で受講しました。これはあくまで個人の理解になりますが、インターネットの通信環境を逐次気にする必要がないので、オンラインよりも対面での講義のほうが個人的にはやりやすいと思います。論文指導がない日は研究室に通って、院生や同級生に自分の論文を見てもらいました。卒業論文と聞いて、最初は8ヶ月以内に執筆し終えるのかと不安に苛まれました。しかし、受講するべき授業がないので、無理のない範囲で卒業論文の執筆を進められています。卒業論文の執筆と同時に進行を進めていることがあります。それは、ITメディアアプリの運営とMSOアプリ・Androidアプリの開発・運用を担う会社の起業準備です。現時点では個人事業のままですが、私は昨年10月に税務署に個人事業主の開業届を提出しました。私は大学卒業後、この会社を一人で経営して生計を立てようと考えています。プログラマー向けに、自分の知識や書いたプログラムをTwitter形式で共有してフリードバックをもらえるアプリを開発しています。あと、初学者向けにSNS経由でプログラミングに関する情報を発信しております。現在、事業は右往左往していますがなんとか運営できております。以上で報告を終了します。皆様もCOVID-19に十分留意して日々の生活をお過ごし下さい。最後までお読みいただき誠にありがとうございます。

令和元年度奨学生 細元亮

福岡大学スポーツ科学部スポーツ科学科の3年生となり、前期の日程が終了しました。コロナ禍で目まぐるしく社会が変化する中、勉学や部活動に力を注いでいました。これまでの学校生活について報告させていただきます。

まず、学習面では、一般の科目と別に

スポーツバイオメカニクスの運動学実験実習が始まりました。これは、バイオメカニクスにおけるキネマティクスとキネティクスとの2つのアプローチを主に学ぶことができました。運動を数字や機械で正しく正確に捉えることで自分の専門競技にも生かすことができると考えました。また、定期試験も7月後半に行われました。対策をしっかりとしたので、自信はあります。大学生活も折り返しに来ていたので1日1日を無駄にせず、自分にプラスになるように勉学に励みたいと思いました。

次に部活動面では、8月8日から11日まで別府で強化合宿がありました。使用したグラウンドは、ラグビー日本代表も練習で使用するものでとても良い環境でラグビーをするのができました。また、ホテルの食事もおいしくて体重を2kg増やして合宿を終えることができました。今年のシーズンは、スタンドオフとして試合に出る予定です。去年までと違うポジションでナールパスになるところもあるかもしれないが、冷静にゲームをコントロールしたいです。初めての挑戦であるのでとてもワクワクしています。

生活面では、ラグビー部とキャンプや海に行ったりとプライベートも充実することができました。昨年までは、新型コロナウイルスの影響で行動制限がされていたが今年はストレスフリーで様々なところに行くことができました。自然に触れることも大切であると思うので、積極的に出かけたと思います。

令和二年度奨学生 宮越大輔

2年前期はコロナ禍の中、ほとんどの授業が対面で始まりました。昨年はほとんどオンライン授業だったこともあり、やつとキャンパスライフがスタートするといった感じでした。授業は専門的な授業が多くなり、製図やプログラミングなど新しい知識を使つて学ぶ時間が多くなりました。製図は機械の部品を上図図と側面図から表すもので、情報の読み取りや書き込むことが楽しく自分の得意な作業であることがわかりました。数学的な授業では、高校の数学をベースに新たな公式や定義を使つて大学数学に発展していき、探究心を養う内容でした。他にも体育の授業をとつて、他の学部の人と交流をし、新しい世界を知ることができました。初めて全部のテストが対面形式でテスト期間は友達と大学の勉強スペースにもつて勉強に励みました。サークル活動もコロナ対策をしながら行われ、多学年や他学部との交流も増えました。先輩と接するときは緊張するものもありましたが、すぐに打ち解け、プライベートでも仲良くなりました。先輩には旅行に連れて行ってもらい、とても充実した生活を送れていました。バイトは昨年度末から続いている料亭のホールスタッフを続けており、アットホームな職場と優

しく暖かい方々のおかげで毎日楽しく働いています。職場には同世代の人が多くアルバイトまで遊ぶ仲間になりました。大学卒業までこのバイトを続けていきたいです。大学が対面授業を再開し、いろいろな人との交流が増えていることも幸せに思います。コロナ禍は続いていますが感染対策をしつつ、限られた中で楽しいことを見つけていこうと思います。一人暮らしも一年を過ぎ、この生活には慣れてきましたが、両親への感謝の気持ちと初心を忘れず生活していこうと思いました。もちろん学業が一番大事ですが、今大学生だからこそできることをたくさんしていきたいと思っています。周りの人への感謝を忘れず、後期も頑張つていきます。

令和三年度奨学生 日高大輝

受験期を乗り越え大学の入学式を迎えて約4か月が経過し、前期が終了しました。広島大学はチーム制なので、前期が1チーム目と2チーム目に分かれています。1チーム目はミクロ経済学やマクロ経済学など専門的な授業が多かったです。内容は難しいですが、理解が出来るまで勉強していくのが楽しく、理解が出来るような学問でした。他にも英語や第二外国語であるフランス語、心理学概論などについての授業もありました。どの授業も奥が深く勉強しがいのある内容だったと思います。2チーム目では英語とフランス語は引き続き授業があり、他には平和についての授業もありました。平和の歴史については外交や戦争の歴史について考えました。1チーム目と2チーム目の終わりにはそれぞれ期末テストが用意されています。授業内容をしっかりと理解できているかが試されるテストです。英語やフランス語の口頭形式のテストでは緊張をしましりましたが、念入りにテスト勉強をしたおかげであまり言葉に詰まらずに答えることが出来ました。心理学概論や平和についての授業ではレポート課題が課されました。本の内容を要約したり、平和とは何なのかというように内容を書きました。本は丁寧な読み返しとすることで、大事な部分をまとめ、要約しました。平和についても自分の思いや考えを書くことで良いレポートに仕上がったと思います。

ここまでで大学での学習面に触れてきたので、次は生活面についても少し触れようと思います。入学式や入学後の説明会は対面で開かれましたが、授業については半分がオンライン授業でしたので少ない対面授業やサークル活動を通じて、同級生や先輩と友達になることが出来ました。生活リズムについても早起きを意識することができました。一人暮らしというのもあり、自分で自分を律しないとすぐ生活リズムが崩れていくと思いました。これからは周りへの感謝の気持ちを忘れず勉学に励んでいきたいと思っています。

令和5年度 4月～10月 表彰一覧

大会名	競技/部活名	個人/団体	競技種目	成績	学年	クラス	氏名	ふりがな	出身中	備考
体育の部										
令和5年度宮崎県高等学校総合体育大会	ラグビー	団体		優勝	3	2	安元 恵士	やすもと けいじ	花畑中	賞状・優勝旗
第10回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会	ラグビー	団体	ボウルトーナメント	3位	3	4	佐光 将宗	さみつ まさむね	花畑中	賞状
第70回宮崎県高等学校野球選手権大会	野球部	団体		優勝	3	1	森下 謙信	もりした けんしん	高鍋東	優勝旗
令和5年度全九州高等学校体育大会	ホッケー	団体		準優勝	3	1	中村 幸愛	なかむら ゆきな	高鍋東	賞状
第21回全九州ホッケー選手権大会	ホッケー	団体		準優勝	3	1	中村 幸愛	なかむら ゆきな	高鍋東	賞状
令和5年度国民体育大会 ホッケー競技 少女女子の部	ホッケー	団体		準優勝	3	1	中村 幸愛	なかむら ゆきな	高鍋東	賞状
令和5年度宮崎県高等学校一年生体育大会	陸上部	団体	4x100mリレー	3位	1	4	野添 溜琳	のぞえ るり	久峰	賞状
					1	6	黒木 春音	くろき はるね	都農	
					1	6	妹尾 紗良	せのお さら	高鍋東	
					1	6	別府 胡麦	べっぷ こむぎ	高鍋東	
		個人	女子100m	7位	1	4	野添 溜琳	のぞえ るり	久峰	賞状
燃ゆる感動かごしま国体2023	ボート	個人	少年女子シングルスカル	5位	3	5	本部 七海	ほんぶ ななみ	高鍋東	
		個人	少年男子ダブルスカル	7位	2	1	(代)井上 佑人	いのうえ ゆうと	唐瀬原	
					2	5	杉 恭多	すぎ きょうた	高鍋西	
文化の部										
第45回宮崎県高等学校総合文化祭	吹奏楽部門	団体	一般	審査員特別賞	2	6	黒木 美音	くろき みお	唐瀬原	賞状
			地区合同	九州大会選抜	2	6	黒木 美音	くろき みお	唐瀬原	賞状
	書道部門	個人	漢字創作	九州大会選抜	3	4	鈴木 光咲	すずき ありさ		症状・楯(九州大会出場)
				九州大会選抜	2	6	宮田 心湖	みやた ここ		症状・楯(九州大会出場)
	美術部門	個人	絵画	準特選	2	5	長野 百花	ながの ももか	唐瀬原	賞状
				準特選 九州大会選抜	2	6	黒木 日和	くろき ひより	高鍋西	賞状(九州大会出場)

ラグビー部の活動について ラグビー部顧問 檜室秀幸

1学期を振り返ると、公式戦が続くとても充実した日々だったと思います。4月の7人制の県予選で優勝、GWの久住遠征力をつけて優勝、5月末に始まった県高校総体で優勝、6月の九州大会では昨年度花園優勝の東福岡高校に善戦、7月の全国7人制大会でも高鍋らしく粘り強く戦い、2勝をあげることが出来ました。また宮崎県選抜として高鍋高校の選手が中心となつて戦つた8月の九州ブロック国体でも強豪の大分県に肉薄するなど、全体的に見て確実に力がついてきたことを実感しています。

ボート部顧問 柴田友輔

ボート部をこの高鍋高校で創部させて頂き12年目となりました。振り返ればクルー集めから、ゴミで溢れかえる漕艇庫の掃除、メンテナンсом行き届いていない旧式ボートを使えるパーツを集めての練習、知り合いから艇を譲つて貰うために長距離を移動しボートを運搬。ボート競技が根付いていない地域で活動する事の大変さを痛感しながらの活動でした。毎日充実した思いがありましたが、心の中ではクルー達にもつと良い道具での練習やサポートが出来ればと申し込んでいる人がいました。選手強化と協会の役職・高体連の役職・学校の仕事など、とても一人ではこなせないと思いながらも何とか今につながったのは、職場の仲間達の手助けや学校・保護者の理解あつての事だと感謝しています。

全国入賞を目標に活動して、昨年末に開催された全国選抜大会で女子シングルスカルが3位。同種目で今年度インターハイは準決勝敗退だが全国6位タイム。鹿児島国体では順位決定レース1着の総合ランキング5位。同大会で2年生の男子ダブルスカルが7位と、着実に競技力は全国レベルに達してきた手応えを感じています。

しかしまだ表彰台の一番上に立つておらず、今からが全国で戦うスタートラインに立つたと捉えています。ボート競技は「ローイング」と呼称が変わります。部の目標としては全国入賞に加え「ローイング」競技を通じて成長「全国に挑戦する」「信頼される人間になる」を軸に引き続きクルーと共に成長していきます。

最後の大会に向けて ホッケー部主将 中村 幸愛

私たちホッケー部は十一月十日から大分県で開催される全九州高

等学校選抜ホッケー大会に出場します。私たちは、「九州三冠・全国制覇」を目標にこれまで頑張ってきましたが、九州一位の壁は高く、決勝戦まで進むも三度大分県はチームに敗れて、毎回悔しい思いでは国体に出場できる一枠を掴み取るため、対戦相手の動画を見て分析したり、ミーティングを重ねましたが、なかなか高鍋のリズムを作ることができず、力を出し切ることができない試合でした。しかし、敗戦した動画を見返し改善点を見つけて今までより更に熱を上げ、これ以上強いチーム作りに励んでいます。次の選抜大会が私たち三年生にとって最後の試合になります。高鍋ホッケーの強みである「パスホッケー」で、必ず優勝し、高校最後の九州大会を笑顔で終わりたいです。精一杯頑張ります。これからも応援よろしくをお願いします。

なんきんはぜ

これは10年前に私が本校に赴任した時のコラムの要約である。
「人生いろいろだ。幼い頃に描いた夢を叶え、満足に生きていく大人はどれくらいいるのだろうか。小さい頃の夢だった職業に就き、毎日好きな仕事をして幸せに暮らしている大人はどれくらいいるだろうか。逆に、思い描いていた未来と全く異なる方向に進んでいた人も少なくない人はいないはずだが、いずれにせよ、夢が現実になることがほとんど素晴らしいものはない。
早稲田大学ラグビー部の元監督である故大西誠之助さんはこんな言葉を残している。
「ラグビーの戦術に絶対はない。だが、絶対を信じない者に勝利は訪れない」。高鍋高校の生徒諸君、将来の「絶対」を信じて今を頑張ろう。そして自分力で夢を現実に変え、幸せな人生にして欲しい。
以前、高鍋高校のライバル校の監督として母校を倒すことを夢見る人生だったのに、異動で真逆のチームの監督になった。複雑だが、これも人生だ。

しかし振り返れば、大学時代に思い描いていた夢は、正月の花園でベンチコートを着て、大観衆の関西弁が飛び交う青々とした芝生のグラウンドで、緑と白の段柄のユニフォームを着たチームの指揮を執っている自分の姿だった。
「花園出場出来なかった高校3年間。あれから30年、様々な経験を経て、いま指導者の立場で夢の場所にいる。人生を左右する大事な試験で「絶対」を信じて必死に頑張った結果が今に繋がっている。だが現状には全く満足出来ていない。まだまだ夢の途中。目指すは正月を越して全国制覇。再び「絶対」を信じて部員とともにさるなる高みへ(日・日)」